



# HIROKI YOSHIDA

## OFFICIAL RELEASE

Race 2016 AUTOBACS SUPER GT Round3/8  
MOTEGI GT GRAND FINAL  
Date 2016.11.11-13  
Race Track TWINRING MOTEGI  
Team Gulf Racing with PACIFIC  
Car GULF NAC PORSCHE 911



### 第3戦の代替戦は初入賞目前でのアクシデントで22位に終わる。

**2016.11.12 QUALIFYING/RACE (公式予選 15位 / 決勝 22位) WEATHER : WET/DRY**

SUPER GT シリーズ最終ラウンドが、11月11~13日に栃木県のツインリンクもてぎにおいて250km×2レースとして開催。Gulf Racing with PACIFIC「GULF NAC PORSCHE 911」(阪口良平 / 吉田広樹)は、12日の第3戦でピットインのタイミングをずらし一時的にクラストップを快走。ところがドライバー交代直後に接触されスピンを喫し22位となった。しかし13日の最終戦では今季ベストリザルトとなる8位で初入賞。最後の最後に大きな収穫を得て一年を締めくくった。

最終ラウンドは、5月に予定されていた第3戦オートポリスが熊本地震の影響でキャンセルされたために、その代替戦を12日に行い、13日には最終戦(第8戦)を行うという変則的なもの。また12日の第3戦はこれまでのハンディウェイトが半減、さらに最終戦ではほとんどの車両のウェイトが0となるため、もともとウェイトを搭載していない9号車にとっては厳しい戦いとなりそうだった。しかしストップ & ゴーのコースであるもてぎと、リヤにエンジンを搭載し低速でのトラクションが掛かりやすいポルシェにとっては相性の悪いコースではなさそうだった。11日はあいにくのウェットコンディションながら2回の公式練習が行われ、1回目は7位、2回目も8位と順調な走り出しとなった。

12日の朝の予選は気温11℃でハーフウェットコンディション。このセッションではいつものように阪口がコースインしてアタックを担当。路面が濡れており車両の性能差があまり顕著に出ないコンディションで、阪口はレインタイヤを温めて29台中14位のタイムをマーク。決勝での追い上げと初入賞が期待された。午後に行われた決勝レースではコースは完全に乾き、気温も18℃まで上昇した。スタートは阪口が担当し、ピット作業を遅らせてタイヤ無交換という作戦。阪口は最初の2周で2つポジションを上げ13位へ。しかし16周目のバトル中に押し出される形でコースオフ。それでも粘り強い走りを展開し、ライバル勢が速いピットインを始めると徐々に順位を上げていき、折り返し点を過ぎた32周目には暫定とは言えクラストップとなった!

阪口は34周まで自分のスティントを引っ張り、吉田に交代。給油を済ませてタイヤは交換せず6位でコースへ。このまま残りの20周弱を走りきれば、ついに念願の初入賞も見えていた。しかしアウトラップの90度コーナーで吉田は後続の車両から接触を受け、スピンしてコースアウト。ここからの脱出に時間を要し順位は24位まで大きく落とす結果となった。それでも吉田は粘り強く走り続け、他車両のレースから脱落もあり22位へ順位を上げてゴール。このレースでの初入賞の夢は消えたが、ますますのパフォーマンスを見せ内容のあるレースとなった。



### SPONSORS



### PARTNERS





# HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



## ついに最終戦で 6 戦連続の完走、そして初ポイント獲得！

2016.11.13 QUALIFYING/RACE (公式予選 4 位 / 決勝 8 位)

WEATHER : DRY

13 日の朝に行われた最終戦の公式予選はドライコンディション。ほとんどの車両がインディ 0 となりガチンコのバトルが展開される。このセッションでは吉田が初めてニュータイヤでアタックに臨んだ。徐々にタイヤの温まった吉田は残り 5 分の時点で 4 位につけるも、直後にタイムを更新されポジションダウン。しかし最後のアタックで再び 4 位のタイムをマーク！ 何と最終戦で 4 番グリッドを獲得することとなった。「いい感触で走れましたが、自分でもここにつけられたのが信じられません」と吉田。最終戦は本当に初入賞が期待された。



そして決勝のスタートも吉田が初めて担当となった。このためスタートでは 2 つポジションを落とし、また 5 周目には後続に順位を譲ったものの、安定して 1 分 51 秒台で周回を重ね 5 位走行中の 18 周で早めのピットイン。ここでチームはタイヤ交換を含め完璧な作業で阪口をコースに送り出した。

阪口は 19 位でコースへ出たが、あとはピット作業を遅らせたライバル勢と順位を入れ替えるだけ。順調にポジションは上がって行き、38 周目にはベースの上がらない車両をかわしてついに入賞圏内となるトップ 10 入り。さらに 40 周目にはもう一台を抜き去り 8 位となり、その順位を守ってチェッカー。ついに最終戦で 6 戦連続の完走を果たし初ポイントを獲得することができた。

開幕戦では車両火災に遭い最悪のスタートを切ったシーズンだったが、最終戦では正々堂々としたレースを展開し 8 位ながらも初のドライバーズポイントを獲得。最後の最後で一年を締めくくるレースをチーム一丸でやれたことは大きな自信となり大きな収穫となった。チームはさらに上のレベルを目指し、来年も SUPER GT シリーズを戦うこととなる。

### ■国江仙嗣監督

「一年間でチームはまとまり、無事シーズンを終えることができました。しかも最後の最後にポイントを取ることができました。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。ドライバーはもちろんメカニックも一年集中していい仕事をしてくれました。世界で最もレベルの高い SUPER GT で戦うことの難しさを勉強させてもらいました。来年もこのプロジェクトは継続し、さらに上のステップを目指し表彰台を狙いたいです。ノーウェイトのレースでこのようなレース運びができたことは大きな自信になりました」

### ■阪口良平選手

「今年最後のレースでポイントが取れました。チームの力を出し切れたレースで結果もついて来ましたし、この成果のあるレースで一年を締めくくることのできたことにホッとしています。多少なりともチームに貢献できたのかなと思います。この結果は必ず来年につながると思います。そして学生たちもタイヤ交換をミスなく決めてくれました。これまで実戦でタイヤ交換をすることは少なかったのですが、一生懸命に練習してきた結果でしょう。応援してくださった方々に感謝します。一年間ありがとうございました！」

### ■吉田広樹選手

「ニュータイヤを履いての予選は初めての経験でしたが、うまくまとめることができ予想以上の 4 位という結果が出せました。決勝のスタートでは順位を落としてしまいましたが、GT500 とのトラフィックも含めいい経験になりました。あと 5~6 周あれば順位はまだ上げられたと思います。今回はギャンブル的な作戦を採ることなく、周囲と同じ土俵でレースをしてきちんと前を走ることができ、そして初めて入賞することができました。学生を含めスタッフ全員がミスなく仕事をした結果だと思います。応援ありがとうございました」

 吉田 広樹



## S P O N S O R S



## P A R T N E R S

